

全国

ぜんこく  
しぎかいじゅんぼう

平成21年  
(2009年)

2月5日

第1714号

毎月3回5の日に発行

定価 1部20円

発行 全国市議会議長会

〒102-0093  
東京都千代田区平河町2-4-2  
代表 TEL 03(3262)5234  
旬報 TEL 03(3262)2309  
発行人 大竹 邦実

http://www.si-gichokai.gr.jp

# 市議会旬報



あいさつする松尾会長(佐世保市)

## 基地協が役員会開く 要望の成果を報告

全国市議会議長会基地協議会(会長 松尾裕幸・佐世保市議長)は1月22日、日本都市センター会館で正副会長・監事・相談役会を開催した。会議では、総務省自治税務局の大橋秀行・固定資産税務長、防衛省地方協力局の廣瀬行成・地方協力企画課長から、平成21年度の基地関係予算についての報告があった。基地関係予算については、

近年の歳出削減方針などの影響から、所要額の確保が危ぶまれていた。このため同協議会は、地元選出国会議員への働きかけや緊急実行運動を実施するなど、積極的な要望運動を行ってきた。その結果、基地・調整両交付金が前年度同額の325.4億円を確保。住宅防音や周辺環境整備、再編交付金などからなる基地周辺対策経費は前年度予算より増額となった。このほか会議では、21年度の運動方針や予算、事業計画等を審議、了承した。

麻生太郎首相は1月28日、衆院本会議において就任後初の施政方針演説を行った。演説の中で麻生首相は、当面は景気対策を指し、20年度1次補正、2次補正、21年度の各予算を、3段ロケットとして事業規模総額75兆円の対策を講じると表明した。また、経済状況の好転を前提としながらも、税制抜本改革を行うための法制上の措置を講じると述べ、消費税の引

第29次地制調専門小委に向け

## 基礎あり方協議 自治体

本会の地方分権・道州制調査委



多賀谷俊史・委員長  
(大阪市)



委員会のもよう

本会の地方分権改革・道州制調査特別委員会(委員長 多賀谷俊史・大阪市議長)は1月21日、日本都市センター会館で委員会を開き、基礎自治体のあり方に関する本会の考え方を取りまとめた。同特別委員会は、地方分権改革や道州制のあり方などについて調査・研究を行うため、平成19年6月の本会定期総会で設置された。今回は、2月6日に第29次地方制度調査会(19年7月3日発足)の専門小委員会で見解を求められていることから、本会の考え方を

整理するために開催された。首相の諮問機関である地方制度調査会は、これまで19回にも及ぶ専門小委員会を開催。「監査機能の充実・強化」「議会制度のあり方」などについての議論を経て、現在は、市町村合併を含めた基礎自治体のあり方」を議題に審議が進められており、2月6日に本会など地方六団体からのヒアリングを予定している。今回取りまとめた「本会の考え方」では、分権型社会において基礎自治体为中心的な役割を担うことを踏まえ、

「さらなる権限・財源の移譲を進め、自らの責任において行政を執行できる仕組みを構築すべき」としている。また、事務権限の移譲にあたっては、相応の行政体制の整備が必要であることから、「政令市、中核市、特例市など人口規模に応じて段階的に進めることも現実的な方策」と提案している。今回の取りまとめを受け、2月6日の地制調専門小委員会には、本会副会長の石川隆二・川越市議長が出席し、意見陳述を行う予定。

### 首相が施政方針演説

き上げに意欲を見せた。

地方分権については、目指すべき国の形は「分権型社会」であると明言。首相が地域の経営者として手腕を発揮できるように、自治体の活動の自由度を拡大すると述べ、分権の推進に強い決意を示した。

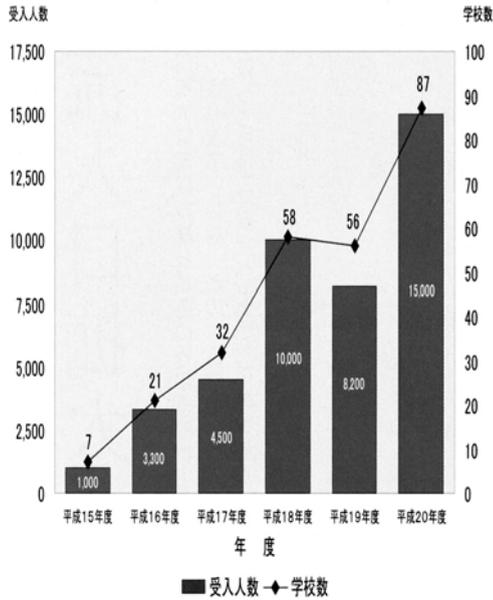
### 2月5日現在の市数

806市
うち
指定都市 17市
中核市 39市
特例市 43市
一般市 684市
特別区 23区

特集

アイデアこそが地域活性化の源

体験型観光受入実績推移



工夫と情熱が人を呼ぶ

民泊で修学旅行受入れ

長崎県松浦市

松浦市は長崎県北西部に位置する人口約2万6000人の都市です。明治から戦後にかけて石炭産業で栄え、最盛期では4万4000人を超える

人口を擁していました。しかし、1960年代から始まったエネルギー革命で、国内の主要エネルギーが石炭から石油へ転換された影響を受け、全炭鉱が閉山。現在の産業構造は、我が国でも有数な水揚げを誇るアジやサバなどの漁業はじめ、第一次産業に依存する割合が高くなっています。

この松浦市で「松浦体験型旅行協議会」が産声を上げたのは平成14年1月のことでした。漁業や農業を愛する住民が集い、漁村や農村で「ほんなもん(『本当のもの』を意味する方言)」を全国の人に

生活基盤の構築も必要でしょう。地域活性化を図るひとつの方策としては、観光客の誘致が挙げられます。しかし、有効な観光施策の展開に対し、敷居が高いと感じている自治体も多いのではないのでしょうか。今回は、関係者の情熱とアイデアで敷居を乗り越えた自治体の施策を紹介します。

生活基盤の構築も必要でしょう。地域活性化を図るひとつの方策としては、観光客の誘致が挙げられます。しかし、有効な観光施策の展開に対し、敷居が高いと感じている自治体も多いのではないのでしょうか。今回は、関係者の情熱とアイデアで敷居を乗り越えた自治体の施策を紹介します。



和牛へ与える飼料を用意 (写真提供・松浦市)

体験してもらおう 松浦市や長崎県の人的・経済的支援を受けつつ同協議会では、訪れた人々の心を癒す体験型旅行のあり方について模索して

きました。取り組みの成果が現れたのは15年5月。初めての体験型旅行として、修学旅行の高校生100人を迎えました。この修学旅行の受け入れが大好評。以来、松浦市へ修学旅行に訪れる中学生や高校生が、増加の一途を辿り、20年度では1万5000人(左上表)を数えるまでに至っています。現在の体験プ



民泊先へ生徒から手紙が (写真提供・松浦市)

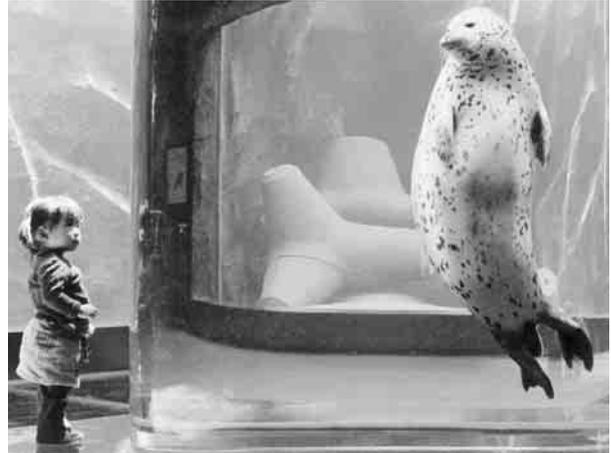
プログラムは 漁業体験15種 農林体験19種 味覚体験25種 自然・歴史体験11種 など合計90種類にも及びます。生徒達は、豊富なメニューの中から体験してみたい作業を選び、実際に従事します。和牛農家体験を選んだ生徒達は、牛に干した牧草や飼料を食べさせる仕事(写真左、牛の毛づくろい、排泄物の片付け、寝床の作成など、基本的な牛の世話を行いました。インスタクターとなった農家も、ありのままの生活を生徒達に伝えることで、自身の仕事の大切さを再認識し、毎日の仕事にやりがいを見出す契機となりました。松浦市の体験型旅行は、これで終わりません。生徒達の宿泊先は、市内の民家。3人から5人に分かれて農家らの家庭で寝泊まりします。民泊を受け入れる側も、はじめは緊張したようですが次第に打ち解けていきます。生徒達が復路に着く頃には、お互いに別れが惜しまれるそつです。民泊を体験した生徒達も、受け入れ先が忘れられず手紙を書く(写真右)など、人的交流が続いています。

**【特集】**  
**アイデアこそが**  
**地域活性化の源**

世界初の「行動展示」で一躍有名となった「旭川市旭山動物園」。我が国の動物園では、動物の姿形を見る「形態展示」が一般的な中、動物の行動や生活を来園者に見せる「行動展示」の導入は、非常に画期的なものでした。旭山動物園へ来園すれば水中トンネルの下から、空を飛

# 発想の転換「行動展示」

北海道旭川市・旭山動物園



アザラシの「行動展示」(写真提供・角川映画)

## 動物園の成功物語・映画化

見ることもできません。愛嬌たっぷりのアザラシが、円柱水槽の中から来園者を出迎えてくれることもあります。この「行動展示」を世に生み出したのは、動物園のスタッフをはじめ、議会を含めた関係者一同の、並々ならぬ情熱の賜物でした。

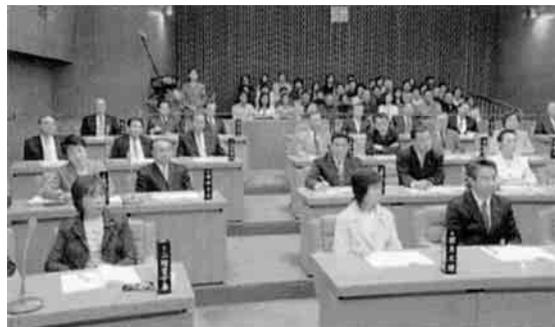
ぶかのように泳ぐペンギンの姿を見ることができません。地上17層に張ったロープを伝い移動するオラウータンの姿を

かつての動物園は大都市ならではの施設。子どもの憧れの場所でした。高度経済成長期、旭川市で開園を求める声が高まり、旭山動物園が産声をあげたのは昭和42年7月のことでした。

開園初年度は来園者が45万人を超え、以来50万人前後の安定した来園者数を記録してきました。しかし平成6年、ゴリラなどが人畜共通感染症のエキノコックスで死亡したことで、入園者数が激減。8年度には26万人にまで落ち込み閉園の危機へ。

ここから年間300万人を集める人気スポットへのサクセスストーリーは、あまりにも有名です。

## 旭川市議会も舞台に



本物の旭川市議会議員も熱演(写真提供・角川映画)

激しい議論が交わされた現実の議会で撮影されているだけに、観る者へ投げ掛ける迫力も満点です。閉園の危機に直面し、閉園回避に奔走した小菅正夫園長は、今年3月で定年退職を迎えるだけに感慨もひとしお。心の内を、こう語っています。「我々が旭山動物園にかけてきた熱い想いを分かっていただけなら、ちよっと嬉しいかな」

撮影を終えたマキノ監督は、こう語ります。「ずっと、あなたのために続けてきた念願の作品。野生の素晴らしさを描くと同時に、人間の素晴らしさを伝えたい」



2月7日から全国ロードショー(写真提供・角川映画)

閉園の危機を乗り越え、国民的動物園となった「旭山動物園」。これまでもTVドラマ、マトキユメンタリー番組で、旭川市関係者の努力の過程が取り上げられてきました。そして、ついに角川映画から映画化も決定。2月7日から全国の映画館でロードショー上映となります。

映画のモデルは、動物園の園長と副園長。園長には俳優の西田敏行氏が扮し、真実のドラマを進行します。この映画のメガホンを取ったのは、マキノ雅彦氏。同氏は俳優としても有名で、俳優として活動する際には津川雅彦を名乗っている人物です。18年1月にドラマで旭山動物園の園長役を引き受けたことがきっかけとなり、同氏は映画化を聞いたそうです。

魅力ある都市には、人を惹き付ける財産があります。この財産は、限られた都市のみ存在するものでなく、いずれの都市にもあります。眠れる財産を、どう活かすかが地域活性化の鍵となりそうです。

